

聖書:ルカの福音書3章1～14節

説教:どうすればよいのでしょうか

はじめに

イエスの父ヨセフは幼い子どもたちを残し、若くして亡くなっただろうと考えられています。そうしますと、長男であるイエスは母を助けながら弟や妹たちを養うために働かなければなりません。ナザレは田舎の小さな村ですから大工仕事だけで食べていくのは難しく、羊を飼い、畑仕事もしたでしょう。そうやって一家を支えてから、やがて三十歳になった頃に救い主としての公生涯をスタートします。

今日開いている所では、まだイエスは登場しません。その前にまず洗礼者ヨハネという人が遣わされ、「悔い改めにふさわしい実を結びなさい」を語ります。これを聞いて、ある方はこう考えるでしょう。「なにかクリスチャンが果たすべき義務」というものがあって、義務を果たした者は立派なクリスチャン、義務を果たさない者は失格者。私はどっちだろう。良い実を結んでいないわたしは失格者。そんなふうに落ち込む方もいるかもしれない。ヨハネが本当に言いたかったことはなにか。考えてまいります。

1 洗礼者ヨハネ

1) イザヤの預言どおりに

マタイの福音書を見ると、「ヨハネはラクダの毛の衣をまとい、腰には川の帯を締め、その食べ物はいなごと野蜜であった」とあり、これは誰が見ても預言者とわかるような典型的な姿、言わば制服ということになります。ときどき警官の姿をして、カードの暗証番号を聞き出して詐欺に遭うという事件が起きて、制服というのは人をだます道具にもなります。当時このような格好をして、自分は預言者であると自ら名乗る人もいたようです。そうしますと、本物の預言者と偽物の預言者を制服だけでは見分けるのは難しい。ではどうするのか。そこで聖書は「やがて、こういう人が現れますよ」と書いて事前に知らせます。ヨハネが登場するおよそ七百年前、イザヤはこう語った。それが4～6節です。「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意せよ。主の通られる道をまっすぐにせよ。すべての谷は埋められ、すべての山や丘は低くなる。曲がったところはまっすぐになり、険しい道は平らになる。こうして、すべての者が神の救いを見る。』」

でも、偽預言者はこれを逆手にとってこう言うでしょう。「イザヤが語った預言者とは自分のことである。」大丈夫、偽物か本物かを見分けるのは簡単です。ポイントは二つ。一つ目。イザヤが語ったこととヨハネが語ったことが同じかどうか。そして二つ目。ヨハネは語るだけではなく、行いがともなっているかどうか。もし口先だけだということのなら、それは偽預言者ということになります。

2) 罪の赦しに導く悔い改めのバプテスマ

では一つ目のポイント。イザヤとヨハネが語ったことは同じであるかどうか。例えばイザヤ書59章20節にこうあります。「シオンには、贖い主として来る。ヤコブの中の、そむきから立ち返る者のところに。」これに対してヨハネは3節でこう語った。「ヨハネはヨルダン川周辺のすべての地域に行って、罪の赦しに導く悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。」

バプテスマとは水でからだを洗うことです。旧約の時代、罪で汚れたからだをきよめるために、水でからだを洗うようにと教えられていました。それはただ洗えばよいという形のことを言っているではありません。まず目には見えない心の働きとして悔い改めがあって、その結果、目に見えるバプテスマが行われる。そのような順番です。「そむきから立ち返る」ことを決心したしるしとしてバプテスマを受ける。その人のところへ贖い主が来て救われる。イザヤとヨハネの語っていることは一致しています。

3) 悔い改めにふさわしい実を結びなさい

では二つ目のポイント。ことばと行いは一致しているのか。このあとヨハネはどうなったのでしょうか。イスラエルの最高権力者ヘロデ王の罪をまっすぐに指摘したことによって逮捕され、最期は首を切られて殺されてしまう。ことばと行いが一致していました。イエスも後に、「女から生まれた者の中で、ヨハネよりも偉大な者はだれもいません」と言って高く評価されています。

2 どうすればよいのでしょうか

1) 群衆、取税人、兵士

このようにヨハネはいのちをかけて語り、人々はこれを聞いて心刺され、バプテスマを受けるため

にヨハネのものに続々とやって来る。そして、みなと同じ質問をした。「それでは、私たちはどうすればよいのでしょうか。」質問したのは、最初が10節にある「群衆。」次に取税人。三番目が兵士たちという順番です。

2) こうしなさい

群衆の質問に対してヨハネはこう答える。11節。「下着を二枚持っている人は、持っていない人に分けてあげなさい。食べ物を持っている人も同じようにしなさい。」取税人の質問に対してはこうです。13節。「決められた以上には、何も取り立ててはいけません。」そして兵士たちの質問に対しては14節。「だれからも、金を力づくで奪ったり脅し取ったりしてはいけません。自分の給料で満足しなさい。」

3) 高いハードル？

ヨハネは「悔い改めにふさわしい実を結びなさい」と語り、口でいうだけではなく、当時の最高権力者の不正と罪を公の前で指摘して殺されていったのですから、これ以上のない悔い改めにふさわしい実を結んだと言えるでしょう。では、私たちもいのちを捨てる生き方をしなければならないのでしょうか。

三浦綾子さんの「塩狩峠」は、主人公が自分の身を投げ打って列車の暴走を止めたという実話をもとにして書かれたと言われています。私は、JRの駅のホームに立っているときなど、この「塩狩峠」のことを思い出すわけです。いまもし目の前で人がホームに落ちたら自分はどうするだろうか。何年か前に、落ちた人を助けようとして列車にひかれて亡くなったという記事が頭に浮かんできて、とてもそんなことができる自信がない。

そんなケースは極端かもしれませんが、でもときどき考える。「自分は良い実を結んでいるだろうか。」そんなとき、「はい、私は良い実を結んでいます」と言える人はまずいません。みな自信がないので不安になります。なかには「良い実を結べない自分はクリスチャン失格」と思い込んで、教会に来られなくなる人もいます。よいクリスチャンになりたいと誰もが心の中で願っているのに、できなくて多くの方が悩んでいる。「良い実を結ばない木は切られて火に投げ込まれる」と言われて、ますます苦しくなるばかりです。いったいどうしたらよいのでしょうか。

3 良い実を結ぶ

1) 自然にそうなる

皆さんはバプテスマを受けられたとき、神によって救われたという喜びでいっぱいだったと思います。かつて罪が神と自分との隔ての壁となって、関係が破壊されていたのを、イエス・キリストの十字架によって隔ての壁が打ちこわされ、神と私の関係は正しく修復されました。そうするとこんどは、人と人との関係が自然に変わってきます。どう変わるか。

ヨハネは群衆に対してはこう教えました。「下着を二枚持っている人は、持っていない人に分けてあげなさい。食べ物を持っている人も同じようにしなさい。」

救われる前は、着るものや食べ物がない人の話しを聞いてもまったく関心がなかった。自分が食べたいものを食べ、自分が着たい服を着ていればしあわせだと満足していた。ところが自分は救ってもらわなければならないほどの弱い者だとわかってくると、こんどは他の弱い人たちのことが気になってくる。ただ気になるだけではない。なにかをしなければと心が動き始めていく。「分けてあげなさい」と命令形で書かれていますが、ここは命令というよりも、自然にそのような心がわき起こってくる、神が人を変えるということはそんなことだと思います。

それは次の取税人のケースでもっと明らかになる。取税人にはこう答えました。「決められた以上には、何も取り立ててはいけません。」取税人が救われたとき、かつて自分が何をしていたかを思い出さないのでしょうか。とうぜん思い出さなければなりません。決められた金額を水増しして相手に素知らぬ顔をして請求していた。それは罪だったと神によって示されて心が痛んだ。ずっとそのことで悩んでいたわけです。ヨハネのところへ来たのもそういう心の痛みがあったからです。

兵士にはこう教えました。「だれからも、金を力づくで奪ったり脅し取ったりしてはいけません。自分の給料で満足しなさい。」これも取税人と同じです。救われた兵士は、かつて自分が何をしていたか思い出して心がうずきます。そもそも心がうずくから救いを求めてきたのです。かつて自分は町の人を脅して金品を巻き上げてきた。もう二度とあんなことはしてはならない。ヨハネに言われなくてもおそらくそう決心したでしょう。

こうして見てくると、ヨハネはなにも極端なことを言っているわけではない。下着を二枚持っている人は、持っていない人に分けてあげなさい。ぜんぶ分け与えなさいというのではありません。あな

たが困らない程度でそのようにしなさい、そういう意味です。取税人は、決められた金額だ徴収しましょう。兵隊さんは、カツアゲするのはやめましょう。ぜんぶ人間としてごく当たり前のことを言っているだけです。

2) 覚えていないので思い出せない

ところが、「良い実を結びなさい」と言われると急に自信がなくなり不安になる。では、私はこう言うべきでしょうか。「今日から皆さんは自信をもって、良きクリスチャンとして歩みましょう。」なんだかそれも違うような気がします。

そもそもどうして不安になるのでしょうか。実はきちんとした理由がある。イエスはあるときこう言われました。「あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し（てくれたので、御国を受け継ぎなさい。）」それを聞いて正しい人は疑問に思った。「主よ。いつ私たちはそのようなことをしたでしょう。」（マタイ25章35節以降）

いつしたのか覚えていないのですから、改めて「良い実を結んでいますか」と質問されても思い出せないのは当然。だから不安になる。

神はどのような者を迎えてくださるのでしょう。良い実を結んだからですか。いいえ。罪を犯したことを悔いる者、神にそむいた者だと自覚する者を迎えて、救ってくださる。救われた者は、神に恩返しとして、良い実を結ぶよう努力するのか。それも違います。神は罪人のこの私をつくり変え、イエスに言われるまで、「ええ、そうだったのですか」と驚くくらい気がつかないうちに良い実を結んでいる。

こころを貧しくして悲しむ者に、このように豊かに与えてくださる神の御名をあがめます。